



### 3 人吉市の連結財務書類(平成30年度) 概要版

連結対象団体をひとつの行政サービス実施体とみなして、人吉市というグループ全体の資産や負債のストック情報を網羅した財務書類が、「連結貸借対照表」です。  
 市民1人当たりの資産は、222万円です。  
 市民1人当たりの負債は、101万4千円です。  
 市全体に限らず連結対象団体・法人があることを表しています。  
 (H31.3.31現在:32,309人)

#### 連結資金収支計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

**期首(29年度末)資金残高**  
24億6千万円

**当期収支** 3億8千万円  
 【内訳】  
 業務活動収支 12億8千万円  
 投資活動収支 △6億6千万円  
 財務活動収支 △2億4千万円

**期末(30年度末)資金残高**  
28億4千万円

期首に比べ3億8千万円増加しています。市全体では4億2千万円の増加でしたので、連結の対象となる事業では約4千万円の資金が減少していることとなります。

#### 連結行政コスト計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

**経常行政コスト・・・①**  
307億8千万円  
 【内訳】  
 人にかかるコスト 43億3千万円  
 職員給与・退職手当など  
 物にかかるコスト 70億円  
 物品購入、光熱水費、施設の修繕費、減価償却費等  
 移転支的コスト 186億7千万円  
 国民健康保険事業や介護保険事業などの社会保障給付、各種団体への補助金、その他のコスト 7億8千万円  
 地方債の利子など

**経常収益・・・②**  
28億4千万円  
 使用料・手数料などに加え、国民健康保険料、介護保険料なども含まれます。

**純経常行政コスト(①-②)・・・A**  
279億4千万円

**臨時損益・・・B**  
6千万円  
 災害復旧事業費や資産売却損益など

**純行政コスト(A+B)**  
280億円

#### 連結貸借対照表

平成31年3月31日現在

借方		貸方	
<b>資産</b>	<b>717億2千万円</b>	<b>負債</b>	<b>324億6千万円</b>
【資産内訳】		【負債内訳】	
公共資産	649億7千万円	固定負債	292億1千万円
道路、下水道、ごみ処理施設など		1年を超えて支払う必要がある債務	
投資等	27億7千万円	流動負債	32億5千万円
基金、出資金、長期延滞債権など		1年以内に支払う必要がある債務	
流動資産	41億7千万円	<b>純資産</b>	<b>392億6千万円</b>
現金・預金、財政調整基金、市税等未収金など		現世代が既に負担して、支払いが済んでいる正味の資産です。	
【流動資産内訳】			
資金残高	28億4千万円		

#### 連結純資産変動計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

**期首(29年度末)純資産残高**  
402億3千万円

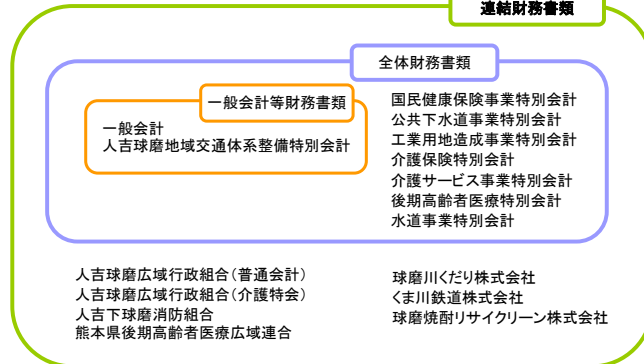
**当期変動高** △9億7千万円  
 【内訳】  
 純行政コスト △280億円  
 財源(税収等・国県等補助金) 279億2千万円  
 その他の変動 △8億9千万円

**期末(30年度末)純資産残高**  
392億6千万円

連結ベースでの市の純資産(正味の資産)が、どのように増減したかを示すのが「連結純資産変動計算書」です。  
 期首に比べ、12億8千万円の減少となっています。グループが保有する資産の中には、上下水道施設やごみ処理施設といった将来にわたりサービスを供給するものが多数ありますので、現役世代と将来世代のバランスを見るうえで役に立つ財務書類といえます。

「行政コスト計算書」の考え方を連結対象団体にも適用し、ひとつの行政サービス実施体とみなして作成したのが「連結行政コスト計算書」です。  
 移転支的コストは広域で行う後期高齢者医療の額が大きいため、全体的にその割合が高くなっています。  
 1年間の市民1人当たりコスト総額は86万7千円となっています。

#### 連結財務書類



連結に際し、普通会計から連結対象の会計・法人への出資金・繰入金等や連結会計間でのサービスの提供/供給などは、連結グループ内での内部取引として相殺消去しています。